

サントリーホールディングス株式会社

2023年12月期中間決算 説明内容

説明者：サントリーホールディングス株式会社
常務執行役員 宮永 暢

平素から私どもの活動に対して多大なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

①当期業績について

2023年度中間期、サントリーグループの業績は、
酒税込みの売上収益が、1兆5,470億円、前年同期比112.7%
酒税を除いた売上収益が、1兆3,909億円、前年同期比113.1% となりました。

次に利益ですが、
営業利益は、1,677億円、前年同期比 111.3%
事業の利益をはかる指標となる、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いた
調整後営業利益は、1,638億円、前年同期比 120.2%
親会社の所有者に帰属する中間利益は、860億円、前年同期比 116.3% となりました。

②事業の動向について

セグメントごとにご説明します。

<飲料・食品セグメント>

売上収益は、7,459億円、前年同期比 110.3%
営業利益は、800億円、前年同期比 88.2% となりました。

国内においては、「サントリー天然水」「GREEN DA・KA・RA」が、上半期としては過去最高の販売数量を達成。海外でも、コアブランドでの活動強化により販売数量が伸長し、増収を達成しました。営業利益は、前年の事業譲渡益の反動により、減益となりました。

なお、先日サントリー食品インターナショナル社が発表したとおり、オセアニア市場でのさらなる成長を目指し、フルコア・サントリー社とビームサントリー社は、協業に向けて進みだしております。

<酒類セグメント>

酒税込みの売上収益は、6,422億円、前年同期比113.8%
酒税を除いた売上収益は、4,866億円、前年同期比115.3%
営業利益は、902億円、前年同期比 131.0% となりました。

スピリッツ事業は、売上収益が酒税込み・酒税控除後ともに前年同期比1割強の増収となりました。海外では、アジアをはじめとする主要マーケットで売上が伸長しました。日本で

は、「ジムビーム」「碧A o」や「角ハイボール缶」が好調に推移しました。RTDは、「こだわり酒場のタコハイ」「-196°C瞬間凍結」を発売するなど新需要創造に挑戦し、市場を上回る伸長となりました。サントリージン「翠」は、日常の食事に合う「翠ジンソーダ」という新たな価値のご提案を強化しております。

続いて、ビール事業です。ビールカテゴリーがけん引し、ノンアルを含むビール事業全体の販売数量が前年同期比 111%と、前年割れと推定される市場を大きく上回る成果を残すことができました。「ザ・プレミアム・モルツ」は、時代にあわせた“新プレミアム創造”を目指して大幅にリニューアルし、ブランド計で前年同期比 111%と伸長しました。4月に新発売した「サントリー生ビール」は、“グッとくる飲みごたえと、かつてない飲みやすさ”にご好評いただき、発売後3カ月の販売数量が200万ケースを突破。先日、年間の販売計画を、当初の約1.3倍となる400万ケースに上方修正しました。

ノンアルコール飲料カテゴリーでは、お酒を飲む人も飲まない人も一緒に楽しめる文化の創造を目指し、「オールフリー」や「のんある晩酌 レモンサワー ノンアルコール」に加え、「あしたを想うオールフリー」「のんある晩酌 ハイボール ノンアルコール」を発売し、ラインナップを拡充しました。さらに、「のんある酒場」を全国各地でオープンすることで、ノンアルコール飲料の魅力を積極的にお客様にお伝えしました。

なお、今年はウイスキーづくり100周年、ビール事業進出60周年と、サントリーグループにとって大きな節目の年であります。今後とも、ものづくりの技術や商品開発力に磨きをかけ、さらなる美味の追求と品質の向上、新需要創造などに取り組んでまいります。

<その他セグメント>

酒税込みの売上収益は、1,590億円、前年同期比 120.2%

酒税を除いた売上収益は、1,584億円、前年同期比 120.3%

営業利益は、232億円、前年同期比 145.5% となりました。

健康食品事業は、お客様の健康志向の高まりから、「ロコモア」「オメガエイド」などが好調でした。

③環境経営について

私どもサントリーグループの企業理念では、「人と自然と響きあい、豊かな生活文化を創造し、『人間の生命（いのち）の輝き』をめざす。」と掲げています。

サステナビリティ経営に関しては、水や農作物など自然の恵みに支えられた食品酒類総合企業として、人と自然が互いに良い影響を与えあって永く持続していく社会を目指し、以前から積極的に取り組んでおります。

まず、当社のものでづくりに欠かせない「水」です。水源涵養力と生物多様性の向上を目的と

した「サントリー 天然水の森」の活動は、今年 20 周年を迎えます。2 月には国内 22 カ所目として「サントリー天然水の森 とうきょう檜原（ひのはら）」を新設しました。同じく 2 月、九州熊本工場が、周辺流域の持続可能な水利用に関する AWS 認証において、最高位「プラチナ」を取得。また、水に関する次世代環境教育「水育（みずいく）」は、新たにイギリス、ニュージーランドを加え、アジア・欧州・オセアニアの計 9 カ国で活動しています。今後も水のサステナビリティの実現に向けて活動を推進してまいります。

「温室効果ガス」では、太陽光などの再生可能エネルギーを活用してグリーン水素を製造する、国内最大級のシステムを、白州工場へ導入することを目指し、3 月に実証実験への移行が決定しました。引き続き山梨県と連動して、2025 年までの導入を目指します。

プラスチックでは 2030 年までにグローバルで使用するすべてのペットボトルの 100%サステナブル化の目標を掲げています。今後も「ボトル to ボトル」水平リサイクルの推進、容器包装の軽量化に加え、業界に先駆けた技術革新に挑戦し、環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいります。

④2023 年の見通しについて

今年 2 月に発表した業績予想から変更はございません。

酒税込みの売上収益は、 3 兆 1,200 億円、前年同期比 105.0%

酒税を除いた売上収益は、 2 兆 8,100 億円、前年同期比 105.7%

営業利益は、 2,800 億円、前年同期比 101.3%

調整後営業利益は、2,800 億円、前年同期比 103.5%

親会社の所有者に帰属する当期利益は、1,400 億円、前年同期比 102.8% を見込んでおります。

今後も、先行き不透明、不確実な状況ではありますが、グループ一体となって、昨年を上回る、売上、利益を目指します。

以上、私からの説明とさせていただきます。

今後とも、ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

以上